

インド最新動向レポート（2022年6月）

◎運搬車両のデリー入境禁止に産業界が反発

デリー州政府は本年10月から来年2月までの5カ月間、中・大型運搬車両のデリーへの乗り入れを原則禁止する方針を示しました。車の排ガスによる大気汚染を抑制するための措置です。これに対し、全インド商人連盟は商品の輸送が寸断され、首都圏経済が大打撃を被ると反発しています。ただし、政府関係者によると、野菜や青果など生鮮食品と穀物、牛乳など主要な食材・食品の運搬車両は乗り入れが認められるとのこと。

◎デリー空港の電源、水力と太陽光のみに

インディラ・ガンジー国際空港では、6月1日から水力と太陽光で発電した電力で全て賄われている。インド国内の空港で全ての電力が水力と太陽光の組み合わせで賄われるのは初めてです。なお、南部ケララ州のコーチ国際空港では、2015年から全ての電力を太陽光のみで賄っています。

◎過去5か月間の乗用車販売 5台に2台はSUV

1月から5月までに販売された乗用車の41%は、スポーツタイプ多目的車（SUV）でした。7年前の2015年は13.5%にすぎませんでした。各自動車メーカーはSUV展開を強化しています。

◎インド人の8割強、半年以内の退職検討

大手人材会社によると、国や企業に勤める従業員の86%が、向こう半年以内の退職を検討しているそうです。退職の理由は、キャリアの向上、職場で求められる役割や業界自体の在り方の変化、会社の戦略および方向性や給与への不満などとなっています。

NakajimaConsultancyServicesLLP

OfficeA-22,GreenParkMain,AurobindoMarg,NewDelhi-1100016